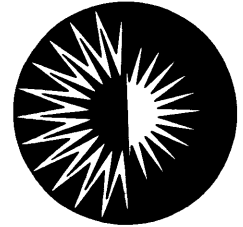


1984年10月 No.23

技術開発ニュース



限りある資源を大切に

内外ニュース

- 送電線および配電線における雷観測…………… 2
 <雷撃性状の解明>
- 軽水炉による地域熱供給…………… 4
 <原子力の多目的利用>

研究紹介

- コンクリート複合柱の開発…………… 5
 <狭あいな個所の配電線工事の効率化>
- ガス絶縁接地抵抗器の開発…………… 6
 <変電機器の安全性向上>
- 土壌還元法による貝類処理の確立…………… 7
 <火力発電所魚介類の処理対策>
- 太陽光発電の発電特性…………… 8
 <太陽エネルギーの利用>

- 石炭バンカの詰まり防止対策…………… 9
 <石炭火力発電所の設備改善>
- 脱硝技術の適用拡大パイロット試験……………10
 <火力発電所のNOx低減対策>
- 御岳地域の地熱調査結果……………11
 <地熱開発調査>
- 水産用ヒートポンプの開発と
 ノリ生産への利用……………12
 <ヒートポンプの水産への利用>

技術解説

- 浸透流解析における境界要素法の活用……………13
- LNGの冷熱利用技術……………14

設備紹介

- X線テレビシステム……………15
- 提出された研究報告書……………16

ル　ー　ツ

常務取締役 山 崎 魏



NHKテレビで東海の歴史建物と云うスポットが放映され、その中で長良川発電所の重厚なレンガ造りの建物が紹介されている。

清流と緑を背景にしたこの建物は、そのままこの川筋にもたらされた文明の証人であるが、出力こそ小さくても堂々たる風格が感じられるのは、当時の人々の気概とロマンが充ちているからなのであろう。

中部電力が発足してもう三十余年、設備も当時の百万キロワットから千八百万キロワットになった。その大部分は昭和三十年以降に建設された大容量機であるが、その中であって、老兵の気概を示しているのがこのようなルーツに属する発電所である。

電気事業の濫觴とも云うべきこれらの発電所は、それぞれ当事者達の希望の星であったわけで、現代日本の黎明期に肩あげて取り組んだ先輩達の青春の象徴である。

名古屋電灯が汽力発電所を設けた云わば名古屋への電力供給のルーツに、電気文化会館が建設中であり今秋八十年を迎えた宮城第一発電所では、過日当時からの従事者達が集って記念の催しを行った。恐らく青春をかけた誇らしい思い出を胸に先輩達は集われたことであろうが、嬉しい話である。

電気事業は、地域のニーズの中から始まり、先輩達の不断的努力で築かれてきた。私共はそのルーツを見定めて、地域の風土にマッチすべく伝統を引き継いでゆきたいものである。

その道は平坦ではなくとも、男のロマンをかきたてるには十分であるはずである。